

(有)イワオ綱業
代表取締役

PICK UP

THE PERSON

市川 保典

KEY WORD

貢献

— kouken —



繊維ロープの製造に携わる両親と祖母の姿を見て育った市川社長。当時から「将来はロープ屋を継ぐのだろう」と覚悟を決めていた。学業修了後はサラリーマンも経験し、20歳で家業へ。「やり甲斐はあるし、30年以上経った今もこの仕事が好き」だと語る社長。これまでは「お客様に喜んでもらいたい」という思いで走り続けてきたが、今はさらに広い視野でものづくりを見つめ直している。

「顧客満足への想いはそのままに、今後はもう一歩踏み出して地域や社会、環境に貢献できることに取り組んでいきたい」と意欲を見せている。

「ロープを通し、様々な形で社会に貢献する
そんな企業を目指していきたい」



繊維ロープの製造・販売を通じて 漁業や建設業、防災分野などに大きく貢献

愛知県蒲郡市を拠点に漁業資材や建設資材として使われる繊維ロープの製造を行う『イワオ綱業』。製品は自社工場で製造し、規格品だけでなく小ロットのオーダーにも細やかに対応している。現・会長である父親から事業を引き継いだ二代目、市川社長のもとを本日はタレントのダンカン氏が訪問。インタビューを行い、これまでの歩みや仕事に懸ける想いなどを伺った。

特別対談

ゲスト
インタビュー

ダンカン × 市川 保典

(有)イワオ綱業
代表取締役

いいえ。岡崎工業高校を卒業して、車の部品の工場に就職し、この会社でものづくりの楽しさを学びましたね。その後、父から足を痛めたから手伝いに来いと言われて、勤めを辞め、こちらに戻ってきたのが20歳の時。その時はまだ両親と祖母だけで、私が入って4人になったんです。当社ではロープを製造していると言いましたが、ロープはワイヤーロープと繊維ロープに大別されるんですね。当社では後者を製造しています。繊維ロープというのは撚りのバランスが難しく、最初は父に教わりながら少しずつ技術を習得していきました。た

——まず、市川社長の歩みから。
ここ、愛知県蒲郡市で生まれ育ちました。当社は私の父である会長が創業した、ロープの製造を手掛ける会社です。子どものころから、「大きくなったら家業を継ぐのだから」とずっと思っていました。社名にある「イワオ」は名字だと思われることも多いのですが、会長の下の名前なんです。
——社長は二代目になられるわけですね。
——社長は二代目になられるわけですね。学業を終えられて、すぐにこちらに入られたのでしょうか。



自社工場での生産と 柔軟な対応力が強み

▼製品はすべて自社工場で生産しているという「イワオ綱業」。「大手企業の場合、量産になるので太さや燃りの規格の変更が難しいのですが、当社の場合は自社工場ですし、細かい変更や小ロットのご注文にも柔軟に対応できる。そこが一番の強みになっています」と市川社長。

▼特に漁業資材のロープは、一人ひとりの漁師によって求めるものが異なるそう。「お客様は全国各地にいらっしゃるのでも自ら足を運び、どんなものが必要なのか打ち合わせを行うんです。そうしてゼロからのものづくりを進めていくことが何よりも楽しいです」と社長は充実感を漂わせる。

▼ロープは永遠に使えるものではなく、ある程度で交換が必要になる消耗品。けれども、漁師にとっては生活を支える道具であり、建設用資材の場合は人の命にも関わるものだ。それだけにメーカーとしての責任は重大。常に研鑽を重ね、安心・安全で高品質な製品を提供していく覚悟だ。

有限会社 イワオ綱業

愛知県蒲郡市形原町北湿見 11 番地
URL: <https://www.iwaorope.co.jp>

「元々はご家族4人だったということですが、人数も増えられたのですか。」
はい、今は19人になりました。お客様の要望に応じているうちに、気がつけばこうなっていたというのが正直なところですね。代替わりをしたのは、20年ほど前にな

「イワオ綱業」のブランドは父がつくり、私は同業のお手伝いしながら事業を続けてきたのですが、もう少し営業に力を入れていこうと思ったんですね。それで大学で学んだことを活かしながら取組を始め、設備投資も行ってきました。その中で上場企業さんが手伝ってほしいということでお取引が始まり、そこから事業規模も一気に拡大したんです。

「様々な経験をして、それを家業に還元されていると。その後はどうされていますか？」
「イワオ綱業」のブランドは父がつくり、私は同業のお手伝いしながら事業を続けてきたのですが、もう少し営業に力を入れていこうと思ったんですね。それで大学で学んだことを活かしながら取組を始め、設備投資も行ってきました。その中で上場企業さんが手伝ってほしいということでお取引が始まり、そこから事業規模も一気に拡大したんです。



「良い関係性を築かれていますね。販売されているロープは、どのような用途で使われているのでしょうか？」
メインは漁業用です。北は北海道から南は沖縄まで、各地で漁業をされている方が取引先なんです。また建設資材用も多く、建設現場で張られるネットにも当社が製造しているようなロープが使用されています。藁の方が使用する黄色やオレンジ色のロープなども扱っています。消防庁で使用するものは入札で決まってから製造するんです。用途によって硬さや太さが違って、様々な加工を施すことで耐久性や耐火性をアップさせているんです。

「一口にロープと言っても、奥が深いのですね。お仕事をやる上で、いつも大事にされていることは何でしょうか？」
当然のことですが、嘘をつかないこと。そして、お客様のご要望に対して、誠心誠意お応えすることを心掛けています。

「お話を聞かせてください。」
「お話を聞かせてください。」

「お話を聞かせてください。」
「お話を聞かせてください。」



Guest Comment

「今回の対談ではロープにも様々な種類や加工の方法があることなど、興味深いお話を聞かせていただきました。また市川社長は地元愛も強く、私も蒲郡市の魅力の一端に触れることができました。現在社長のご子息は東京におられるそうですが、帰郷をお勧めしますよ（笑）。お土産として頂いた「蒲郡みかん」も、甘さと酸味が絶妙に調和しており、凄く美味しかったです！」

「お話を聞かせてください。」
「お話を聞かせてください。」